藤谷和歌集

名所歌の中に、奥つ蛍

岩こゆるおきつの浪に影うきて
あら磯づたひ行くほたるかな

嘉元元年百首歌奉りける時、蛍

行くほたる神だにけたぬおもひとや
みたらし川の波にもゆらん

夏歌の中、蛍

真木の戸もささで涼しき宵の間の
すだれにすきてゆくほたるかな

名所歌の中に、江蛍

しげりあふこやの入江の蘆の葉に
かくれもやらで行くほたるかな

乾元元年仙洞の歌合に、夏夕

みだれ行くほたるのけしき情みえて
月におとらぬ夏の夕ぐれ

永仁二年内裏歌合に、夏夜

みだれ行くほたるの影や滝波の
水くらき夜の玉をなすらむ

「国歌大観」より